

信州 ESD コンソーシアム 令和3年度成果発表&交流会

～実践記録～

1. 学校名： 文化学園長野中学・高等学校

2. 対象： 中学・高校
(学年・人数)

3. 活動内容

(1) 活動名 『人と人をつなぐ ヘアドネーション』 誰一人取り残さない社会を目指して

(2) 活動の目標 SDGs の達成に向けて身近な課題の解決を図る活動から「地域活性化」と「SDGs の自分ごと化」を目指す

- ①捨てられてしまう髪を、髪を必要としている誰かのために役立てる。
- ②誰一人取り残さない社会を目指す。
- ③思いや願いを持続させる。
- ④活動を通して、地域社会活性化に貢献する。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 多様性 (多種多様な現象が起きていること) | <input checked="" type="checkbox"/> 公平性 (一人ひとりを大切に) |
| <input checked="" type="checkbox"/> 相互性 (関わりあっている) | <input checked="" type="checkbox"/> 連携性 (互いに連携・協力すること) |
| <input type="checkbox"/> 有限性 (限りがある) | <input checked="" type="checkbox"/> 責任制 (責任を持って) |
| <input type="checkbox"/> その他 () | |

②育成する資質・能力

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 批判的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 他者と協力する力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力 | <input checked="" type="checkbox"/> つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 進んで参加する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力 | |

(4) 関連する SDGs

3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう
17. パートナリシップで目標を達成しよう



(5) 活動の内容

- ①ヘアドネーション学習会を開催。身近にも髪の毛を失い、髪の毛を必要としている人々がいることを知る。その後、自分たちに何ができるかを議論。
- ②広報活動をする。
 - ・広報動画を作成する。
 - ・県内ユネスコスクールをはじめとする教育機関を含む「信州 ESD コンソーシアム構成団体」48 団体と活動の共有する。
 - ・ESD 推進の一環で行われる「信州 ESD コンソーシアム成果発表会」(信州大学)にて、本年度の活動をプレゼンテーションする。
 - ・NAGANO SDGs PROJECT「みんなのSDGs宣言」への参加。
 - ・信濃毎日新聞「ヤングジャーナルSDGsコーナー」にて活動をPRする。
 - ・「長野コレクション実行委員会」主催のヘアショー (NBS長野放送)にてプレゼンテーション。生配信後はアーカイブ動画で全世界発信する。

③本校文化祭（すみれ祭）でステージショーを開催する。

- ・前夜祭にて全校生徒に向けたステージショーにて、長野市内美容室のご協力を得て「ヘアドネーションショー」を開催。地域と生徒とが協働したヘアショーを実現する。



「長野コレクション実行委員会」主催のヘアショー（NBS 長野放送）にてプレゼンテーション



信濃毎日新聞「ヤングジャ SDGs コーナー記事



美容室りんごの木様とコラボで実現：ドネーションショー

4. 活動の成果

- ・ヘアドネーションは国籍、居住地、年齢、性別、髪色、髪質を問わず、誰でも髪の毛を寄付することができるから、私にもできる社会貢献。2年かけて伸ばした髪を切って送った時、達成感と自己有用感を持てた。（中学2年）
- ・「誰一人取り残さない」の理念に立ち、地域社会を巻き込みながら、全ての人々のウェルビーイング (well-being) を目指した活動であるため、「自分のできること」から関わられた。（高校2年）
- ・関わり方は大きく3つあり、誰でも自分の興味・関心に基づいて活動が可能であるという。（高校2年）
 (①髪を伸ばして提供する活動 ②周知・広報活動 ③誰もが楽しんで参加できるイベント活動)
- ・つながりの希薄化が進む現状において、特に地域への関心を持って欲しい若い世代に向けて発信力を高めるための SNS 等のツールを積極的に活用すること、また高齢世代に向けて地元新聞社等に協力頂くことは、つながり合うインクルーシブな地域社会のための手立てとなった。（高校2年）

5. 指導方法・体制の工夫

- ・PDCA サイクルでフィードバックをしながら、持続可能な活動にするために、定例会を開催した。
- ・男子生徒によるヘア提供の壁という新たな課題発生した。「男子なのに長髪？」を乗り越えるにはどうしたらよいか。男子も巻き込んでジェンダー課題に向きあいたい。
- ・多様なステークホルダーと共創で、更なる地域活性化を目指した。

【協力諸団体】

広 報： ○信濃毎日新聞社 ○長野コレクション実行委員会(NBS 長野放送) ○NAGANO SDGs PROJECT
 ○ユネスコスクール加盟校 ○信州 ESD コンソーシアム加盟 48 団体

SDG s 連携： ○早川美容商事

髪送付先： ○つな髪® (大阪市)

カット先： ○美容室りんごの木 ○美容室フォルビチローロ